
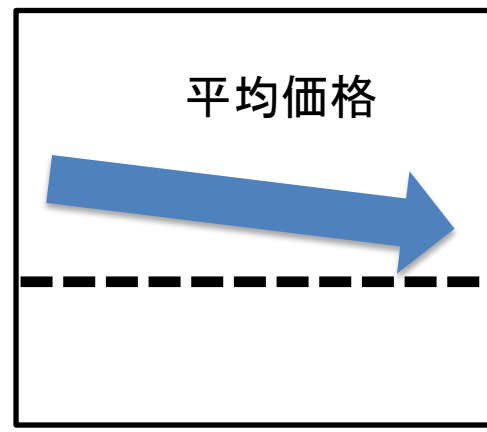

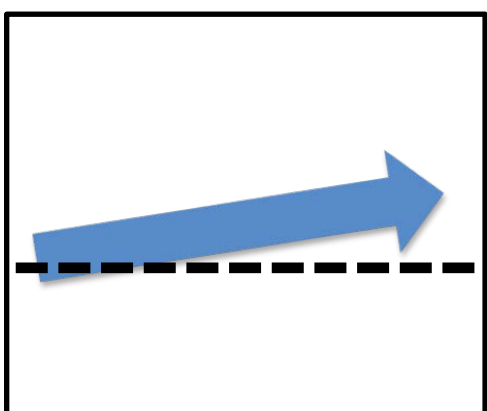
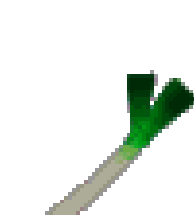
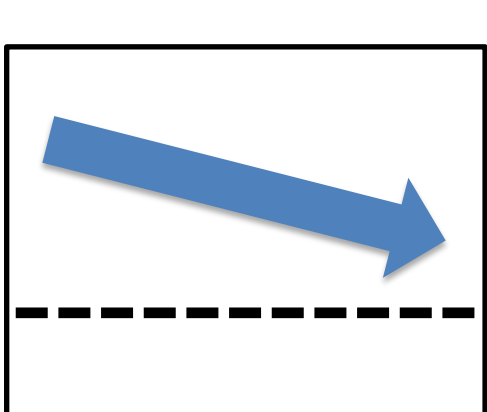

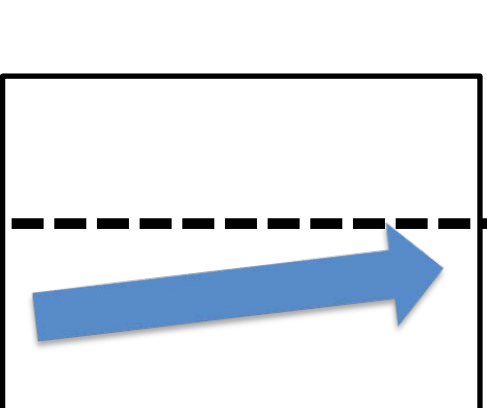

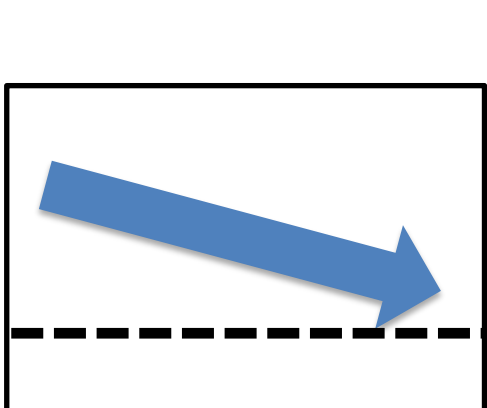

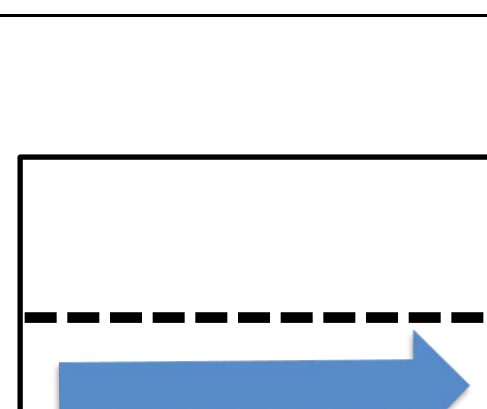
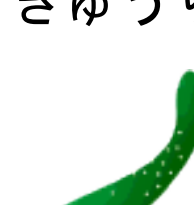
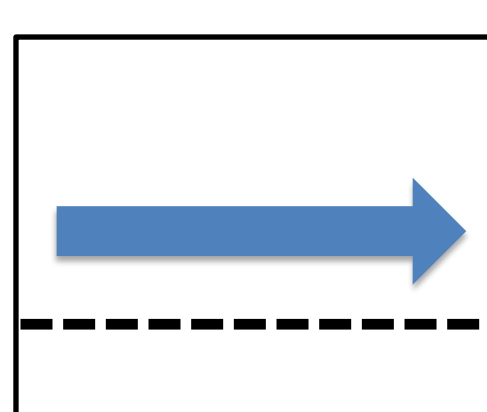

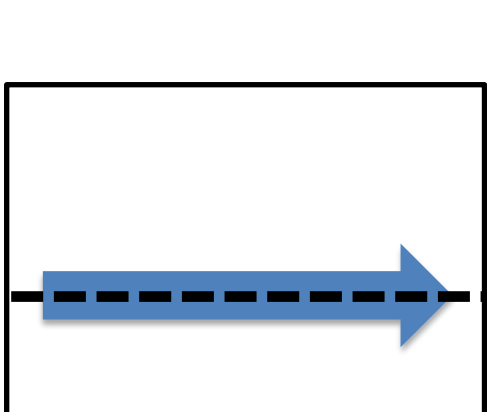

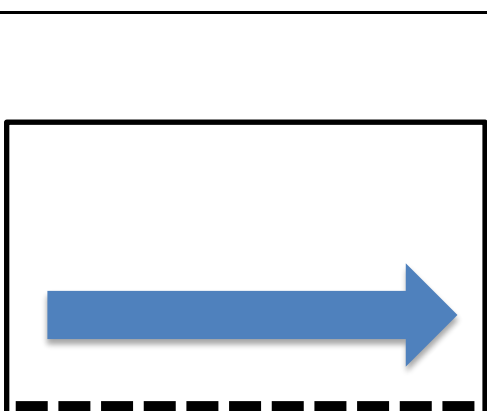
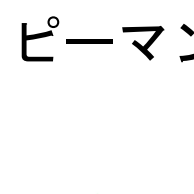
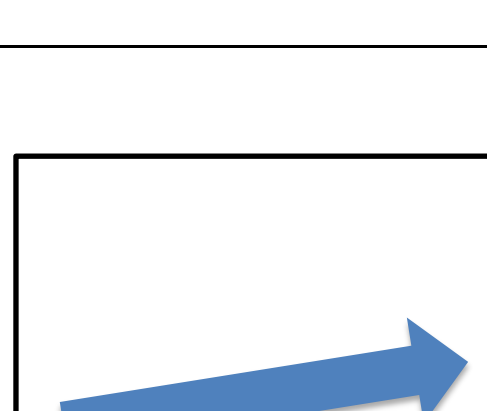
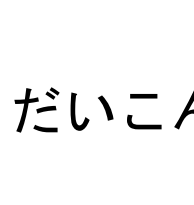
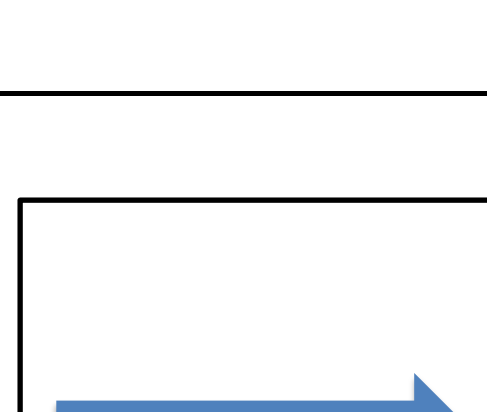
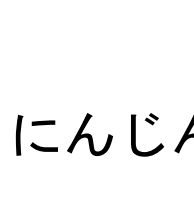
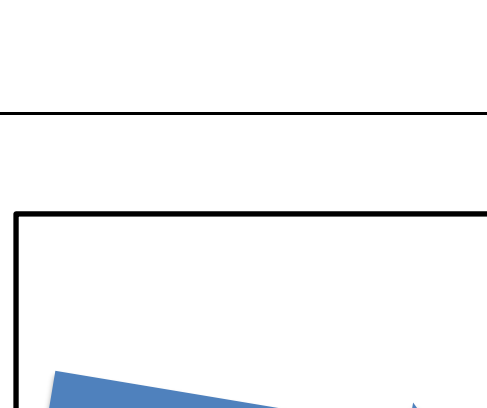


野菜の需給・価格動向レポート(平成28年5月23日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種 類		4 月の価格情報			5 月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月上旬までの見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近 畿ブロック旬別平均 販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基 となる平均 価格	指定野菜の 関東・近畿 ブロック旬 別平均販売 価額			
			中旬	下旬					
葉 茎 菜 類		88. 59	102	118	88. 59 67. 20	93	・ 入荷量：18,358t ・ 主産地：千葉（42）、神奈川（28）、愛知（16）		・ 千葉産は、最盛期を迎えており、天候に恵まれ生育は順調で、前進傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調であることから引き続き平年並みの出荷の見込み。
		91. 02	94	114	91. 02 81. 66	108	・ 入荷量：4,064t ・ 主産地：愛知（40）、兵庫（15）、福岡（8）		・ 千葉産及び神奈川産の出荷が平年より多め若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年をやや上回って推移する見込み。
		95. 80	80	76	78. 12	67	・ 入荷量：13,780t ・ 主産地：佐賀（53）、兵庫（16）、千葉（6）		・ 佐賀産は、天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、生育は順調で肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		95. 80	83	71	78. 12	65	・ 入荷量：5,099t ・ 主産地：兵庫（52）、佐賀（38）		・ 兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるものの、佐賀産が平年より少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。
	 (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	277. 31	352	392	277. 31	535	・ 入荷量：3,784t ・ 主産地：茨城（36）、千葉（31）、埼玉（14）		・ 茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であり、太りも良いことから、平年より多めの出荷となっており、前進出荷となっていることから、今後は、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、出荷終盤で平年並みの出荷となっており、5月下旬にはおおむね切り上がりとなる見込み。
		334. 73	382	454	334. 73	483	・ 入荷量：219t ・ 主産地：徳島（53）、香川（18）、三重（12）、奈良（12）		・ 茨城産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。
		67. 05	89	75	67. 05	60	・ 入荷量：6,032t ・ 主産地：茨城（93）		・ 茨城産は、出荷終盤を迎える中、平年より少なめの出荷となっており、今後も春先の気温が高めで適度な降雨もあり前進出荷となっていたことや病害虫の影響により、引き続き平年よりやや少なめの出荷となる見込み。
		74. 06	95	97	74. 06	85	・ 入荷量：2,760t ・ 主産地：長崎（36）、茨城（27）、熊本（16）、長野（12）		・ 茨城産の出荷が平年よりやや少ないと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		376. 10	466	515	376. 10	442	・ 入荷量：1,419t ・ 主産地：群馬（36）、茨城（32）、埼玉（9）、岩手（9）		・ 群馬産は、気温高と適度な降雨による順調な生育により、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		416. 73	462	544	416. 73	514	・ 入荷量：525t ・ 主産地：岐阜（62）、福岡（13）		・ 群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。
		156. 23	166	141	156. 23	137	・ 入荷量：7,689t ・ 主産地：茨城（37）、長野（34）、群馬（18）		・ 茨城産は、気温が高めで天候に恵まれ前進出荷となっていたことから、平年よりやや少なめの出荷となっており、5月下旬でおおむね切り上がりとなる見込み。長野産は、気温が高めで適度な降雨もあり、天候に恵まれ前進出荷となっていることから、引き続き平年より多めの出荷となる見込み。
		165. 00	171	155	165. 00	155	・ 入荷量：1,646t ・ 主産地：長野（49）、兵庫（34）		・ 長野産の出荷が平年より多いと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
果 菜 類		266. 63	259	233	189. 84	227	・ 入荷量：8,482t ・ 主産地：埼玉（30）、群馬（21）、茨城（12）、千葉（10）		・ 埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、一部に病害がみられるものの大きな影響はなく、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、越冬作が早めの終盤を迎えることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		254. 91	260	236	186. 08	234	・ 入荷量：1,849t ・ 主産地：宮崎（37）、高知（20）、徳島（12）、群馬（9）、愛媛（9）		・ 埼玉産、群馬産及び茨城県産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		356. 77	367	320	230. 55	277	・ 入荷量：9,934t ・ 主産地：栃木（23）、熊本（21）、愛知（12）、千葉（10）、茨城（8）、埼玉（6）、群馬（4）		・ 栃木産は、生育が順調で、平年並みの出荷となっており、今後は夏秋のものが前進傾向であることから、平年よりやや多めの出荷の見込み。熊本産は、地震被害のあった一部の選果場でも生産者及び生産者団体の努力により、ほぼ平年並みの出荷が行われるようになっている。不安定な天候で出荷に波はあるものの、平年並みとなっており、今後は天候が安定すると思われ、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、生育は順調で、平年よりやや多めの出荷となっており、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、やや小玉傾向ではあるが、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		337. 87	374	323	239. 96	285	・ 入荷量：1,925t ・ 主産地：熊本（68）、福岡（8）、愛知（6）		・ 熊本産、愛知産、千葉産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。
		347. 77	387	380	311. 92	386	・ 入荷量：4,034t ・ 主産地：高知（42）、福岡（21）、群馬（10）		・ 高知産は、11月の曇天の影響が少し残っており、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は天候が良く徐々に回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、夜温が低いことや一部で病害が散見していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		330. 95	370	363	271. 01	361	・ 入荷量：1,067t ・ 主産地：高知（32）、熊本（20）、大阪（17）、福岡（15）、岡山（8）		・ 高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		339. 20	441	435	339. 20	445	・ 入荷量：3,079t ・ 主産地：茨城（73）、高知（9）		・ 茨城産は、順調な生育となっていることから、平年並みの出荷となっているものの、草勢があまり良くないことから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		311. 41	382	392	311. 41	408	・ 入荷量：596t ・ 主産地：宮崎（39）、高知（23）、茨城（15）		・ 茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年並みとなっている価格は、平年を上回って推移する見込み。
根 菜 類		86. 59	106	89	86. 59	93	・ 入荷量：10,157t ・ 主産地：千葉（75）		・ 千葉産は、春先の天候不順の遅れから回復し、平年よりやや多めの出荷となっている。今後は出荷の終盤を迎え出荷量は減少するものの、平年並みの出荷の見込み。
		89. 53	76	75	89. 53	81	・ 入荷量：3,037t ・ 主産地：長崎（37）、鹿児島（27）		・ 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		156. 99	151	178	156. 99	193	・ 入荷量：8,289t ・ 主産地：徳島（66）、千葉（21）		・ 徳島産は、天候に恵まれ順調な生育であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		148. 36	155	171	148. 36	181	・ 入荷量：1,964t ・ 主産地：徳島（51）、長崎（34）、宮崎（9）		・ 徳島産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。



種 類		4 月の価格情報			5 月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月上旬までの見通し	<div>「図の見方」 </div>
		(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近 畿ブロック旬別平均 販売価額		(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の 関東・近畿 ブロック旬 別平均販売 価額			
			中旬	下旬					
い  も  類	<div>ばれいしょ</div>	138.39	215 (155%)	206 (149%)	138.39	182 (132%)	<div></div>	<div>・長崎産は、天候不順により収穫が遅れていたものの、天候回復により平年並みの出荷となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、出荷終盤を迎えており、雪害の影響も解消していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</div> <div>・長崎産及び鹿児島産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続きその水準は平年を上回る見込み。</div>	
		144.98	203 (140%)	213 (147%)	144.98	175 (121%)			

注： 1 平均価格は、過去6カ年間（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価額の赤字は旬別価格を150%に上回るもの、背景赤色は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。  
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアであり、関東は本年見込、近畿は前年実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目にさらに細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス（結球）、トマトについてはトマト（大玉）の数値を用いている。  
8 キャベツの平均価格は、上段が5月1～15日まで、下段は5月16日～31日までの価格である。

種 類		4 月の価格情報		5 月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の6月上旬までの見通し	「図の見方」 	
		(参考) 過去5カ年 平均価格	東京・大阪市場の 旬別価格		(参考) 過去5カ年 平均価格				東京・大阪 市場の 旬別価格
			中旬	下旬					
洋菜類	ブロッコリー 	384.68	615 (160%)	453 (118%)	313.45	459 (146%)		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 埼玉産は、暖冬及び春先の気温高で天候に恵まれ前進出荷となっていたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。香川産は、寒暖の影響から、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は出荷量の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。愛知産は、暖冬及び春先の気温高で天候に恵まれ前進出荷となっていたことから、引き続き平年より少ない出荷の見込み。福島産は、天候に恵まれ順調な生育となり、引き続き平年より多めの出荷の見込み。</li><li>・ 福島産及び香川産の出荷が平年より多め若しくは平年並みと見込まれるものの、埼玉産及び愛知産の出荷が平年よりやや少なめ若しくは少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</li></ul>	
		404.16	638 (158%)	484 (120%)	339.76	443 (130%)			
	アスパラガス 	1220.98	1,406 (115%)	1,553 (127%)	1159.23	1,428 (123%)		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 福島産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、天候に恵まれ生育は順調で、作付面積が増加していることもあり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。秋田産は、天候に恵まれ順調な生育となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、最近の低温等により生育が鈍化し、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復に伴い、平年より多めの出荷の見込み。長野産は、雪解けがやや早く、生育は順調でやや前進傾向であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。</li><li>・ 福島産、秋田産及び長野産の出荷が平年並みと見込まれるものの、栃木産及び北海道産が平年よりやや多め若しくは多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を下回って推移する見込み。</li></ul>	
		1275.11	1,321 (104%)	1,517 (119%)	1317.00	1,549 (118%)			
葉茎菜類	こまつな 	304.65	267 (88%)	256 (84%)	214.35	198 (92%)		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で、作付面積の増加もあることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ適度な降雨から生育は順調で、やや前進出荷となっており、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。</li><li>・ 茨城産及び埼玉産の出荷が平年より多め若しくはやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。</li></ul>	
		262.87	264 (100%)	266 (101%)	167.98	178 (106%)			

注： 1 平均価格は、過去5カ年（平成23～27年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景ありは平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで前年実績である。  
6 コメントは、都道府県、卸団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

## 2 トピック — アスパラガスの需給動向等について —

今回は、いよいよ国産が旬を迎え本格的に出回ることとなるアスパラガスの需給動向等について紹介する。

アスパラガスは、江戸時代にオランダから観賞用として輸入され、繁茂するとキジが隠れることができるほど生い茂ることから、「オランダキジカクシ」という和名がつけられている。食用として本格的に栽培が始まったのは大正時代で、戦前は主に欧米輸出向けとして、ホワイトアスパラガスが生産されていたが、戦後は生活が豊かになり、また、健康志向も高まる中で、生鮮用のグリーンアスパラガスが主体となってきている。最近では、生鮮用のホワイトアスパラガス、紫アスパラガス、ミニアスパラガスなど、多様化してきている。

アスパラガスは多年草で、苗を植えてから1～2年間の育成後、2～3年目から収穫ができるようになり、概ね10年で苗の植え替えが行われる。アスパラガスは堆肥を施用すればするほど収量が増えることから「畑の豚」ともいわれている。

作付面積の推移をみると、平成14年の6400ヘクタールから26年の5580ヘクタールと13%減少しているが、近年の出荷量は2万5千トン前後で安定的に推移している。この背景の一つとして、佐賀県や長崎県などの九州の産地で立茎栽培が広まったことがある。立茎栽培とは、従前は春芽の収穫（1月～5月頃）のみであったところを、雨よけハウスを導入して夏芽の収穫も行うもので、収穫期間が1月から10月と大幅に伸び、単収の増加につながっている。

このため、佐賀県と長崎県は、作付面積がそれぞれ全体の2%台であるのに対し、出荷量は佐賀県が10.8%、長崎県が8.4%となっている。都道府県別にみると、北海道（4260トン）が最も多く、次いで佐賀県（2710トン）、長野県（2170トン）、長崎県（2120トン）と続き、この4道県で全国の5割を占めている。

国産の出荷時期はだいたい3月から9月頃で、端境期となる9月から11月はオーストラリア産、12月から3月はメキシコ産の輸入が多くなっている。アスパラガスの輸入量をみると、国産の出荷期間の拡大等から、平成12年の2万4767トン进行ピークに減少傾向で推移し、26年は1万1741トンとなっており、消費量の約7割を国産が占めている。

**アスパラガスの都道府県別作付面積(26年)**

都道府県	作付面積 (ha)
北海道	1,510
佐賀	126
広島	129
岩手	262
山形	333
秋田	418
福島	419
長野	1,010
計	5,580

**アスパラガスの都道府県別出荷量(26年)**

都道府県	出荷量 (t)
北海道	4,260
佐賀	2,710
長野	2,170
長崎	2,120
熊本	1,910
福岡	1,530
福島	1,320
山形	1,180
秋田	1,130
その他	6,770
計	25,100

資料: ペジ探(原資料: 農林水産省「野菜生産出荷統計」)

**生鮮アスパラガスの国別輸入量(平成27年)**

月	その他 (t)	ペルー (t)	オーストラリア (t)	メキシコ (t)	国内産の割合 (%)
1	99	649	0	0	~35
2	0	0	1,483	0	~45
3	0	0	1,225	0	~65
4	0	0	395	0	~85
5	0	0	121	0	~95
6	0	0	0	0	~95
7	0	0	0	0	~95
8	0	0	0	0	~95
9	0	0	591	0	~15
10	0	0	1,480	0	~10
11	0	0	689	248	~5
12	0	0	0	264	~10

資料: ペジ探(原資: 財務省貿易統計)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

★「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01\\_000058.html](http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000058.html)に掲載しています。

※無断転載禁止 ▶ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。